


平成 21 年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
1-1	防災ネットワークエリアマップ作成事業	新規	平成 21 年度	地域振興課

1 事業概要

事業実施主体	地域振興課	対象者	自主防災組織を中心とした 中原区民	■当初予定事業 □緊急対応事業	
事業形態	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他 ()	関連事業局 ・事業内容	総務局危機管理室		
目的及び内容	<p>防災ネットワークエリアマップ（以下「当マップ」という。）は、平成 10 年に作成して以来見直しを行っていなかった。そのため、経年変化や避難所エリアの変更などによる地図情報が反映されておらず、実際の防災活動に役立たせるため、新たな情報を反映した当マップの作成を目的として区民である自主防災組織の意見をふまえてこの事業を行う。</p> <p>また、新たに平成 19 年度 12 月より開始された災害時要援護者避難支援制度への取組みとして、要援護者情報を書き込める地図を作成するものである。</p>				
予算額	1,313,000 (円)	決算額	928,200 (円)	不用額※	384,800 (円)
※不用の理由	指名競争入札の結果、入札額が当初予算額を大幅に下回ったため。				
結果・成果	<p>【事業実施状況・成果物などの写真等】</p>  <p>(作成したマップ【8種類】)</p>	<p>当マップは、新たな情報を反映し、災害時要援護者避難支援制度における登録情報を書き込めるものとして作成した。</p> <p>また、自主防災組織の意見を反映させた上で全 8 中学校区ごとに当マップを 1,000 部作成し、中原区自主防災組織の方を中心に配布を行い、訓練等に役立ててもらうとともに一般向けに中原区のホームページに掲載し、広く周知を図った。</p> <p>このことにより、地域での防災情報としての啓発と活用が行われ、地域防災力の向上につながった。</p>			
		実施時期 (開催日/回数等)	平成 22 年 3 月	参加 人数等	—

2 事業評価

評価の結果と理由（緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること）

近年各地で発生している大地震により、防災に対する意識が高まっている中で防災情報に対するニーズも高まっている。

そうした状況で、地図情報を新たに更新し、市で作成しているものより詳細な区版として市民へ周知することは、有効な防災情報として活用されることから災害に備える上で重要なものとなった。

なお、当マップの作成にあたり、防災ネットワーク連絡会議等での自主防災組織の意見を反映させた。また、新たな防災情報の追加や要援護者情報などを書き込めるものにする等、実際に役立つものを意識して作成した。

今後は状況を見ながら、定期的に地図情報を更新する必要がある。

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
<input type="checkbox"/> 見直し・改善の上継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続する <input type="checkbox"/> 現状どおり <input checked="" type="checkbox"/> 終了する	毎年地図情報を更新する必要性は感じないが、状況を見ながら定期的に地図情報等を更新する必要がある。	

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

※ 区民会議からの主な意見

便利で役立つマップである。マップを作成したことを町会等で周知しても良いのではないかと。今後も、必要に応じて更新してもらいたい。

平成21年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
1-2	中原区ガイドブック（安心ブック）作成事業	継続	H17	企画課

1 事業概要

事業実施主体	中原区役所	対象者	区民	<input checked="" type="checkbox"/> 当初予定事業 <input type="checkbox"/> 緊急対応事業	
事業形態	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他（ ）	関連事業局 ・事業内容			
目的及び内容	区の概要や公共施設、医療機関、防災拠点などを掲載した「中原区ガイドブック」を区民課窓口で転入者に配布する事により、安全安心のまちづくりの推進を図ることができる。 中原区ガイドブックを2万5千部作成し、区民課窓口をはじめとする、区役所各窓口で配布する。				
予算額	2,666,000 (円)	決算額	2,073,750 (円)	不用額※	592,650 (円)
※不用の理由	入札の結果、入札額が当初予算額を大幅に下回ったため。				
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】  (作成したガイドブック)		中原区ガイドブックを2万5千部作成した。区民意見を反映し、大判地図を新たに作成し、ブックに挟み込んだ。		
	実施時期 (開催日/回数等)	平成22年3月	参加人数等	——	

2 事業評価

評価の結果と理由（緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること） 転入者などへ、区の概要や、公共施設、医療機関、防災拠点を案内する、ガイドブックを作成し、配布する事は評価できる。また、詳細地図に加え、1枚もの大判地図を挟み込む事により利便性の向上を図った。
--

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善の上継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続する <input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 終了する	より見やすく、使いやすいガイドブックとする為、形状を見直し、継続する。	B

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

※ 区民会議からの主な意見


転入者等中原区を知らない人には大変便利なものである。今後も継続して作成してもらいたい。 小さいガイドブックも便利だが、大きなマップにしてもよいのではないか。

平成21年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
2-1	橋渡しによる地域福祉の活性化事業	継続	19年度	地域保健福祉課

1 事業概要

事業実施主体	地域保健福祉課	対象者	中原区民	<input checked="" type="checkbox"/> 当初予定事業 <input type="checkbox"/> 緊急対応事業	
事業形態	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他 ()	関連事業局・事業内容	健康福祉局		
目的及び内容	『福祉の心、人と人との橋渡しで、支え合える地域づくり』を基本理念とし、平成20年度から3か年計画である『中原区地域福祉計画』を推進する上で重点多岐な取り組みと位置付けている。これらの事業を推進することで、同計画の基本目標である『1 福祉活動やボランティア活動の機会をつくる』『2 福祉活動やボランティア活動のいっそうの活性化・充実を図る』『3 区民、福祉活動団体、行政等が情報を共有できるしくみをつくる』『4 地域におけるネットワークづくりを推進する』の実現を目指す。				
予算額	2,213,000 (円)	決算額	1,766,843 (円)	不用額※	446,157 (円)
※不用の理由	当初見積額を下回る金額で契約ができたため				
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】  (高齢者向けのホームページ『ますます元気なかはら』)	○まちなか講座: 衛生課主催の講習会参加者及び川崎中原工場協会の加盟団体を対象に講座を計7回開催し、320名が参加した。 ○地域福祉講座: 福祉事業、ボランティア養成事業を公募し、5事業を選定し、事業委託した。 ○小杉駅周辺への啓発活動: ①啓発用リーフレットの配布(10月)ミッドスカイトワー全戸配布及び周辺マンション受付に配布(約1,000部)。 ②民生委員児童委員活動に関心があるとして、1月30日に「エリアマネジメント連絡会議」で説明を行った。 ③横須賀線武蔵小杉駅の『地域交流促進イベント』会場において、地域福祉啓発用品約2,000枚の配布。 ④NPO 法人小杉駅周辺エリアマネジメントやまちづくり局小杉整備推進室及び庁内関係課との連携を図った。			
	実施時期(開催日/回数等)	平成21年度中	参加人数等	上記のとおり	

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること) ○まちなか講座は、企業向けに働きかけを行ったが、昨年に引き続き実施のため応募企業が少なかった。 ○地域福祉講座は、5事業の募集に対し、6事業の応募があった。地域のニーズに添った支援が行えた。 ○高齢者向けのホームページ『ますます元気なかはら』を22年4月に立ち上げた。 ○武蔵小杉駅周辺地域等の啓発活動は、新しく入居が始まったマンションへ福祉・医療・保健に関するリーフレットを配布した。その結果、『民生委員・児童委員活動について』の説明の機会を持つことができた。今後の多面的な働きかけを行っていくための足がかりとなった。
--

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善の上継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続する <input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 終了する	22年度は地域福祉計画の見直し年度である。地域福祉の活性化に向け、より一層の普及・啓発を進めていく。	A

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

※ 区民会議からの主な意見

小杉駅周辺の再開発地域からも民生委員が選出されるようになり、事業の効果は出ていると感じている。地域福祉が浸透していない地域へ向けて拡大して行ってほしい。
--

平成21年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
2-2	なかはら福祉健康まつり	継続	平成11年度	地域保健福祉課

1 事業概要

事業実施主体	なかはら福祉健康まつり実行委員会		対象者	中原区民		<input checked="" type="checkbox"/> 当初予定事業 <input type="checkbox"/> 緊急対応事業	
事業形態	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他 ()		関連事業局・事業内容	なし			
目的及び内容	誰もが健康で生き生き暮らせる地域福祉社会を目指し、区民参加型イベントを実施し福祉・健康に対する区民の知識や理解を深める機会を創出する事を目的として実施する 参加型イベント、活動発表等行なうことにより、福祉・健康関係の各参加団体が、お互いに交流を図り、親睦を深め、地域のネットワークの拡大を図る。						
予算額	1,200,000 (円)	決算額	1,200,000 (円)	不用額※	0 (円)		
※不用の理由							
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】 		高齢者、障害者、手話サークル、健康相談など福祉、健康に関する地域活動をしている55団体が参加し、日頃行っている活動の発表や展示を行なった。また、福祉健康体験ウォークラリー、リズム体操、減塩試食コーナーなど市民が直接体験できる様々なイベント等を取り入れ、福祉や健康に関する学びや理解を深めるとともに、区民や各福祉団体間の交流を図ることができた。				
	(福祉健康まつりで実施した音楽会)		実施時期 (開催日/回数等)	平成21年11月21日	参加人数等	1,800人	

2 事業評価

評価の結果と理由 (緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
区民参加型のイベントとして、地域で活動している福祉や健康に関する団体等が主体となって実施しているものである。福祉等についての市民の関心はまだ高いものとは言えず、その活動について広く市民に知ってもらうことにより、健康づくりや福祉に関心を持ち、理解を深めてもらう機会とすることができた。また、障害者、高齢者、健康づくりに関わる様々な団体が、福祉健康まつりを通し、団体間の交流を図る機会となっており、地域活動のネットワークづくりに貢献することができた。

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善の上継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続する <input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 終了する	平成22年3月に行った実行委員会(反省会)では、各団体からのアンケート結果を元に、次回に向け、修正するところ、新たに準備が必要なところなど、意見交換がなされた。それを元に、平成22年度の実行委員会では、改善の上継続していく方向である。	B

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

※ 区民会議からの主な意見


多くの団体が参加し、盛大に行われており、成果があがっていると感じている。 区民にイベントの存在をより周知する取り組みも必要である。
--

平成21年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
2-3	脳・体はつらつ倶楽部事業	継続	平成19年	地域保健福祉課

1 事業概要

事業実施主体	地域保健福祉課		対象者	認知症予防に取り組む高齢者	<input checked="" type="checkbox"/> 当初予定事業 <input type="checkbox"/> 緊急対応事業
事業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他()		関連事業局・事業内容	健康福祉局 介護予防事業	
目的及び内容	認知症予防プログラムを実施し、活動を通して認知症や閉じこもりを防止し、地域のつながりを持ち生き生きとした生活を過ごすために実施する。また、終了後も継続した活動が行えるように自主グループ化を目指す。				
予算額	318,000円	決算額	273,243円	不用額※	44,757 (円)
※不用の理由	サポーター養成が順調に進み、講師謝礼が予定額を下回ったため				
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】  (参加者に配布した出席簿)		認知症予防のプログラムとして、回想法と有酸素運動を取り入れ実施した。参加前後に、閉じこもりチェックアンケート、基本チェックリスト、体力測定を実施した。結果として、外出の状況や心の状況に維持・改善がみられた。終了後も、サポーターとともに会を継続して介護予防に取り組んでおり、地域資源の場になっている。支えるサポーターへ学習会を実施し、会の継続支援も実施した。		
	実施時期 (開催日/回数等)	平成21年9月 から合計14回	参加 人数等	24名	

2 事業評価

評価の結果と理由 (緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
参加者の多くは、運動機能や社会機能の維持・向上がみられた。また、会に参加し、回想法を行う中で心理的変化として前向きになった者も多く、介護予防としての効果はあった。サポーターと会の運営について話し合いを重ね、サポーターが積極的に会の運営に関わり、終了後もサポーターを中心に会の活動を行い、社会資源の1つになっている。

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
<input type="checkbox"/> 見直し・改善の上継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続する <input type="checkbox"/> 現状どおり <input checked="" type="checkbox"/> 終了する	今後は協働推進事業ではなく、介護予防事業として実施していき、脳・体はつらつ倶楽部の地域への推進は今後も継続して行う。	

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

※ 区民会議からの主な意見


高齢化が進み、介護予防事業の必要性は増している。今後も取り組んでいってもらいたい。

平成21年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
3-1	働いている妊婦への支援事業	継続	平成20年度	保健福祉サービス課

1 事業概要

事業実施主体	かわさき助産師ネットワーク SUN ²	対象者	働きながら子育てをする 予定の妊婦とパートナー	■当初予定事業 □緊急対応事業											
事業形態	□直営 □一部委託 ■全部委託 □その他 ()	関連事業局 ・事業内容	—												
目的及び内容	<p><目的> 就労女性の増加に伴い、仕事と家庭生活の両立に関心が高まると同時に、不安を抱える人も増えていることから、対象者の不安を軽減し心の準備ができるようにする。そして夫婦が協力し合って仕事と子育てや家庭生活を営むワークライフバランスのイメージが持てるようにする。</p> <p><内容> ①妊娠・出産・子育ての知恵(講話) ②子育て支援情報紹介 ③先輩ママ・パパとの交流 ④保育施設の紹介や認可保育園入所案内 ⑤体験コーナー(赤ちゃんお着替え・スリング・妊婦体験等)</p>														
予算額	221,000(円)	決算額	221,000(円)	不用額※	0(円)										
※不用の理由															
結果・成果	<p>【事業実施状況・成果物などの写真等】</p>  <p>(先輩ママ・パパの交流)</p>	<p>年度内4回、土曜日に区役所五階会議室において実施した。4回の参加妊婦の合計169人、パートナー145人、先輩親子等35人であった。</p> <p>参加者の関心事は①保育園について ②出産・育児について ③先輩ママ・パパの体験談が多かった。</p> <p>内容についてはどの項目も「大変良い」「良い」が8割を占め、二人で参加できて良かった、参考になった、充実していたなど概ね好評であった。当日の運営は、かわさき助産師ネットワーク SUN² のメンバーが中心となり、保健福祉センター、関東労災病院看護職が協力し円滑に実施できた。</p> <table border="1"> <tr> <td>実施時期</td> <td>H21.6/26 9/26</td> <td>参加人数等</td> <td colspan="2">379人</td> </tr> <tr> <td>(開催日/回数等)</td> <td>12/12 H23.3/13</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table>				実施時期	H21.6/26 9/26	参加人数等	379人		(開催日/回数等)	12/12 H23.3/13			
実施時期	H21.6/26 9/26	参加人数等	379人												
(開催日/回数等)	12/12 H23.3/13														

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
<ul style="list-style-type: none"> 土曜日開催により、参加者の86%がパートナーとともに参加し、2人で出産後の生活への心構えができた満足感が高かった。また参加者の68%が平日実施の両親学級に参加していなかったことから、平日の両親学級の補完ができた。 毎回男女とも保育施設についての関心が高く、待機児数や保育園に入所できるかどうか等、切実なニーズがあった。 乳幼児健診に来所した人に「先輩ママ・パパ」としての参加を募り協力を得た。先輩に保育園のことや日常生活の様子を聞き、これからの生活へのイメージ作りに役立っていた。また先輩ママ・パパにとっても楽しく参加でき市民参加型の事業として展開できた。2年目となり3者の協働事業としてチームワーク良く運営実施した。

3 事業の方向

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善の上継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続する <input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 終了する	<p>昨年の反省を活かし、先輩ママ・パパの参加者数を増やし、参加者が車座になって体験談を聞き交流できたことは参加者のニーズに合っていた。各内容の時間配分を再検討し、参加者同士の交流、先輩ママ・パパ同士の交流も行い、継続して参加してもらえる仕組みを作っていく。</p>	B

※ 区民会議からの主な意見

区内には子育て世代が多い。また、働いている母親も多い。充実が必要である。

平成 21 年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
3-2	多胎児育児支援事業	継続	平成 18 年度	保健福祉サービス課

1 事業概要

事業実施主体	保健福祉サービス課 児童・家庭支援担当 ふたごちゃんフェスタ実行委員会		対象者	中原区在住の多胎児を持つ親 及び多胎児育児に関心のある区民	<input checked="" type="checkbox"/> 当初予定事業 <input type="checkbox"/> 緊急対応事業
事業形態	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他 ()		関連事業局 ・事業内容	—	
目的及び内容	<p>多胎児の育児は、精神的・身体的・経済的負担が大きく、虐待のリスクが高いと言われている。また妊娠期から情報が少なく育児も孤立しやすい。中原区は多胎児の出生が年間約 30 組と多いことから、ボランティアと協働し、多胎児家族が交流できる場を定着させ、多胎児家族の相互支援を目指すために以下の支援を行う。</p> <p>①交流会の開催、②多胎児育児の情報提供としてピーナッツ通信を発行、③ボランティアグループ「ピーナッツ」の定例会を毎月開催、④ふたごちゃんフェスタの開催、⑤ボランティアグループ強化のため研修会を実施</p>				
予算額	357,000 (円)	決算額	247,934 (円)	不用額※	109,066 (円)
※不用の理由	新型インフルエンザ流行により、ふたごちゃんフェスタの開催を中止としたため。				
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】 		①区内 3 会場での交流会の実施 エポックなかはら 9月18日 4組 妊婦3人(25人) 下沼部町内会館 10月16日 4組(20人) 国際交流センター H22年2月19日 4組 妊婦2人(32人) ②ピーナッツ通信 135 世帯に郵送。 ③ピーナッツの活動支援及び①②④の企画・運営 (通年 参加者実数 13名 延べ78名) ④12月5日(土)開催予定であったふたごちゃんフェスタは、新型インフルエンザ流行による感染拡大予防のため中止と決定。 ⑤多胎児サポートネットワーク代表による研修会実施。		
	(エポックなかはら交流会)		実施時期 (開催日/回数等)	上記記載	参加 人数等

2 事業評価

評価の結果と理由 (緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること) <p>交流会では、先輩双子ママが進行を行い、ピアサポートの機能をとることが出来た。多胎児の保護者のより身近な会場で開催したこともあり、今まで参加できなかった母子の参加が認められ、また妊婦も含めた交流が行えた。</p> <p>ふたごちゃんフェスタは参加者の多くが乳幼児や妊婦等、感染ハイリスクであることから、健康と安全を考え実行委員会で中止と決定し、区役所ホームページ及び 135 世帯に郵送で周知した。</p> <p>孤立しやすい多胎児家族に向け、ボランティアグループの紹介とともに交流会・フェスタの様子を伝える「ピーナッツ通信」を発行。保健福祉センターに来所できない多胎児家族にも支援があることを PR できた。研修会を開催したことで、ボランティアグループが支援を継続する意義が明確になり、ボランティアの士気が高まった。</p>
--

3 事業の方向

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善の上継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続する <input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 終了する	<p>ボランティアを中心に交流会を実施、多胎児育児支援の実績を積み、区民の中でも定着してきている。今後、母体となる「ピーナッツ」の組織強化のため、新たなボランティアの発掘や多胎児育児経験者のボランティアの参加など各機関等との連携を検討していく予定。また、参加できない家族へ活動の PR を行い、参加意欲を促し、エンパワメントの向上を目指す。</p>	B

※ 区民会議からの主な意見


多胎児を持つ親にとって頼りになっている事業である。

平成21年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
3-3	乳幼児ふれあい事業	継続	平成19年度	保健福祉サービス課

1 事業概要

事業実施主体	保健福祉サービス課		対象者	乳幼児健診来所の親子		<input checked="" type="checkbox"/> 当初予定事業 <input type="checkbox"/> 緊急対応事業
事業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他()		関連事業局・事業内容	—		
目的及び内容	中原区は大規模開発等により、乳幼児数、転入者が増加しており、地域の子育て情報に対する需要が高い。また、乳幼児健診の受診者数も増加している。乳幼児健診の来所の機会、待ち時間を利用し、子育て情報の提供するための子育てアドバイザーの設置、親子ふれあいを促進し健診の待ち時間を楽しく安全に過ごすためのにこにこコーナーを開設する。また、子育てに理解のある子育てボランティアとともに事業を実施する。					
予算額	1,015,000(円)	決算額	1,000,433(円)	不用額※	14,567(円)	
※不用の理由						
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】  (ボランティアによる見守り支援)		健診での保健所の来所時の健診の待ち時間の機会を利用しての専門職による子育て情報や、地域の子育て情報の提供を行うことができた。また、健診の待ち時間を楽しく安全に過ごすための保育士による遊びのスペースであるにこにこコーナーや、ボランティアによる見守りがあることで健診を安心して受けもらう環境づくりをすることができた。ほとんどの親子が利用し、専門職による親子遊びの方法についてのヒントが得られた等の評価が参加者より得られた。			
	実施時期(開催日/回数等)	平成21年度通年	参加人数等	年間108回実施		

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること) 健診の待ち時間を利用して、専門職による子育て相談や情報提供、ふれあい遊びなどを提供すること、更に健診の機会を有効に活用することができ、楽しく安全に健診受けるために重要で必要不可欠な場となっている。ボランティアの存在も地域の子育て支援を行うためにも重要である。今後も、引き続き乳幼児の増加、転入者の増加は考えられるため、優先的に取り組むべき事業である。
--

3 事業の方向

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善の上継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続する <input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 終了する	健診時に必要で有効な事業となっている。今後も、引き続き、乳幼児の増加、転入者の増加が考えられるため、子育て情報に対する需要も引き続き高く、健診者の受診者数の増加も見込まれるため継続実施し、内容の検討等を行っていく。	B

※ 区民会議からの主な意見

母親同士の情報交換の場として、役立っている事業である。

平成21年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
3-4	中原区子育て・子ども支援ネットワーク事業	継続	平成18年	こども支援室

1 事業概要

事業実施主体	①子育てネットワーク②子ども支援ネットワーク ③なかはら子ども未来フェスタ実行委員会	対象者	区内の子どもと保護者、子どもに関わる関係機関、団体	■当初予定事業 □緊急対応事業	
事業形態	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他 ()	関連事業局・事業内容			
目的及び内容	<p>地域全体で子どもが抱えている課題を共有し、課題解決にむけた支援をおこなうため、就学前の子育てネットワーク会議を年4回、就学児以上の子ども支援ネットワーク会議を年3回開催した。</p> <p>①子育てネットワークでは、情報交換を繰り返し、「子ネット通信」の発行などタイムリーな情報の発信を行い、子育て自主グループ支援を関係機関と展開し、マタニティ&ファミリーコンサートなどの実施を協働して取り組んだ。</p> <p>②子ども支援ネットワークでは、地域の素敵な大人と連携した「中原区子どものあり方・生き方プロジェクト」や「中原区スクールプロジェクト」の実施、子どもネットワークのホームページ「なかはらっこ」による情報発信に取り組んだ。</p> <p>③区の子どもに関する情報交流を目的とした「なかはら子ども未来フェスタ」の実施に向け、準備を行なった。</p>				
予算額	3,480,000(円)	決算額	3,021,219(円)	不用額※	458,781(円)
※不用の理由	新型インフルエンザ流行の影響により、子ども未来フェスタ及びマタニティ&ファミリーコンサート(12月分)の開催を中止したため。				
結果・成果	<p>【事業実施状況・成果物などの写真等】</p> 	<p>子育てネットワークでは、部会活動として年12回の会議を開き、隔月で「子ネット通信」を8,000部/回発行した。また、自主グループ支援部会にて子育て支援の冊子を作成発行(2,000部)し、区民・関係者へ配布した。また、コンサートは7月に実施し、730名の参加を得た。</p> <p>子ども支援ネットワークでは、3回の会議の中で、「あり方・生き方プロジェクト」で地域の素敵な大人に出会う活動を検討し、その一環として、3つの小学校で、プロのダンサーによるワークショップを開き、ダンスでコミュニケーションの素晴らしさを体験する機会を持った。「スクールプロジェクト」では、小学生から高校生が数ヶ月をかけて集い学びあい、成果を区民へ広げていった。</p> <p>また、新型インフルエンザにより開催は中止したが、2つのネットワークをつなぐための子ども未来フェスタを開催するため、実行委員会や参加団体説明会等を実施し、交流を行った。</p>			
		実施時期 (開催日/回数等)	コンサート(7/3)	参加人数等	約730人

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
<p>地域で活動している自主グループや、ボランティアグループ等と行政機関、公共的活動を行う団体などがネットワークとして集まり、地域の子育てや、子どもを支援していくという共通認識の下に各関係機関・団体の活動状況等の情報交流や活動を実施し、連携を進めることが出来た。また、「子ども未来フェスタ」や「マタニティ&ファミリーコンサート(12月分)」については、新型インフルエンザ流行により、乳幼児期の感染蔓延防止のため中止せざるを得なかったが、実行委員会等を通じ、それぞれのネットワークの参加者同士の交流を図りながら、ネットワークの役割を果たせた。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善の上継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続する <input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 終了する	<p>子ども支援に関する2つのネットワークの特性を生かしながら、参加団体等の活動の実践を積み上げ、課題を共有していくことで、区民と協働した実践的なネットワーク活動の取組みを引き続き推進していく。</p>	A

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

※ 区民会議からの主な意見

<p>子育て世代の多い中原区にとって、子育て支援をしてもらえる団体等のネットワークを保っていく取り組みは必要であり、継続して行ってほしい。</p>

平成21年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
3-5	中原区子育て支援推進事業	継続	平成15年	こども支援室

1 事業概要

事業実施主体	中原区子育て支援推進実行委員会	対象者	区内在住の0歳から3歳位までの乳幼児とその保護者	<input checked="" type="checkbox"/> 当初予定事業 <input type="checkbox"/> 緊急対応事業
事業形態	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他 ()	関連事業局・事業内容		
目的及び内容	区内に住む乳幼児を育てている保護者の孤立化や、育児不安の軽減をはかり、ひいては虐待予防につながっていきけるように、地域ぐるみで子育て中の保護者をサポートしていくために、区の社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会などの地域住民が主体となり、区内18箇所で「子育てサロン」を開催し、保護者への支援を行う。			

予算額	2,100,000 (円)	決算額	2,080,828 (円)	不用額※	19,172 (円)
-----	---------------	-----	---------------	------	------------

※不用の理由	
--------	--

結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】 	中原区の社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会が主体となった区内14箇所と、今年度から協働事業として支援している自主サロン4箇所も加えた区内18箇所で、月1回の子育てサロンを開催している。 子育てサロン開催の他、各地区では、見守り活動や、中学生などのボランティア体験の受入れや、小学校との協働で命の授業など、その活動は地域の世代間交流を進める活動にもつながっている。子育てサロンスタッフ研修として、“サロンでの防災について”“親子遊びについて”を開催し、サロン開催会場の見直しやスタッフのスキルアップに繋がった。			
	実施時期 (開催日/回数等)	サロンを月1回 延べ182回	参加人数等	10,488人	

2 事業評価

評価の結果と理由 (緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること) 子育て中の転入者や出生数の多い中原区では、乳幼児を持つ保護者が周囲に知り合いがいないため、不安を抱えていることが多く、子育て中の親同士や地域の人々と交流できる「子育てサロン」に対するニーズは大きいものがある。 「子育てサロン」に参加することにより、子育てに関する情報交換が出来、同じ年頃の子どもを持つ親同士のつながりが出来ることにより、孤立化による育児不安の軽減につながっている。 平成21年度は、新型インフルエンザ流行の影響により、5会場をのぞき12月から2月の間に開催を中止としたサロンがあり、開催数と、利用者が前年度を下回る状況となった。
--

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善の上継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続する <input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 終了する	区内では地域毎に地域のボランティアが主体的に実施しているサロン活動が定着しており、転入してきた親子や、初めて子育てをしている親子が集える場所として有効に機能している。サロンに参加しにくい親子への支援などを付加するよう引き続き取り組んでいく必要がある。	A

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

※ 区民会議からの主な意見

子育て中の母親を支える大きな役割を果たしている事業である。 孤独になりがちな育児中の母親同士が、本事業を通じて、知り合いになれる。大切な取り組みである。
